

□概要：

会の名称：「南三陸の懐かしい未来を実現する会」

会員：南三陸出身者およびその復興に協力してくれる者

会議：5月3日12：00～15：00志津川高校にて、39名参加

□ 会の趣旨

3月11日の東日本大震災で南三陸町は壊滅的な打撃を受けました。町の大半は津波に流され、多くの命を失い、旧来の復興には長い年月がかかることが予想されます。

復興に向けては非常に困難な状況ではありますが、それは一方で今までの生産と消費という社会のあり方を見直し、新しい社会を作るための可能性が開けたという意味でもあるといえます。結果として高齢者が多く命を失っているなど、それは近代の過疎化・高齢化が遠因にあるといえます。それから分かることはある意味今回の震災は近代社会以降の問題を露呈させた「人災」であるともいえるということですが、今後どういった「過程」を踏みながら復興していくかは、将来に向けても、震災でなくなった多くの方々のためにも非常に重要な課程であるといえます。

現在は国や行政が主体でトップダウンの復興の舵取りをしています。国が提示している復興の形は、戦後の復興の形そのものであり、歴史的事実としてそれによって地域は過疎化・高齢化という問題を引き起こしたのは承知の通りです。

それはある意味では、今回の原発の問題を引き起こした問題構造とまったく同じであり、今回のこのようなまれにみる状況下では、問題を引き起こしたものと同一地平からの解決手法では問題を解決することはできません。

事実、旧来の復興のあり方では何十年もの年月が必要とされることが予想され、物理的に非常に困難を極めるといえます。

一方で現代の一般の人々の意識は、所有から共有へと意識が大転換しつつあります。つまり、思いを共有してお互いに自立しながらも助け合う共同体をつくり、みんなで励ましあい、復興＝これからの社会のあり方をみんなで考え実践していくことが、なによりの活力源となっています。そういったつながりをつくることこそ、本当の復興あり方であり、かつそれは一日で始めることができます。

本会は、そういった社会状況を鑑みながら、南三陸を愛する者たちが、ああ、南三陸に帰ってきたな、とみんなが懐かしさを思えるような、また一方で今後何代先までの未来の可能性を感じさせるモデルになるような両面を併せ持つ「懐かしい未来」を実現するために、理想を描きながら足元から具体的に活動するためのモデルを提示する会であります。

□会議の内容

5月3日のキックオフMTでは、みんなの思いを共有し、復興に向けて同じ方向を向けることに主眼を置いた。

- 1、みんなの思いのシェアリング
- 2、南三陸の理想像～みんなの記憶から南三陸の復興を考える
- 3、具体的な活動方針→グループ化

まずはみんなの現状を共有した上で、未来の理想像を思い描き、そこへと向かう段階的なことを具体的に検討した。

□ 1 : みんなの思いのシェアリング今回の参加者の状況は？

T.S RQ 東北本部長 :

H RQ 総本部長 : 30 年前カンボジアでの支援活動をきっかけに災害救援に取り組む

H.A : Y の兄。ふだんは海外を放浪。歌津を中心に活動。

S : お寺の息子。思うところがたくさん。ココに住んで「懐かしい未来」の実現に協力したい。

S.S : 仙台市役所で土木関係の仕事。住民の意見をまとめるようなことをしたい。

S.K : 仙台で TV 局 (東日本放送) につとめている。今回の震災がまだ信じられない。

H.K : 3/11 は仙台で。ニュースを見て動転してしまった。

H.I : 仙台で WEB 制作などの仕事。今日はみんなの笑顔が見れてよかった。今回のことで自分がどういうコミュニティに所属しているかよくわかった。いろいろな中で南三陸という強いつながりを感じた。

S.S : 地元に住んでいる。海辺の本吉町の水産加工会社。高台から海の様子をみていた。失職したが、現在は父の大工仕事を手伝う。

M.A : 魚屋。高い建物にいたが、危機一髪車で逃れた。せっかく助かった命。役に立ちたい。

S.T : 三日間は 1 日おにぎり一個ですごした。今まで以上のいい街、観光の街に。

S.T : 医者。3/11 は沖縄にいた。皆でいい会にしよう。

Y.Y : 東和町出身。教えてもらい参加した。3/11 は気仙沼にいた。

J.T : 役場の臨時職員。ベイサイドアリーナで助かった。まだ実感がない。

T.T : 群馬で仕事をしている。群馬でもすごく揺れた。安否確認がどれず、2~3 日してやっと親と連絡が取れた。いい会にしたい。

K.E : 当日は東和で仕事していた。何をしても良いか分からなかったなので、このような機会に感謝。

S : 生徒会長だった。仙台でモデルやタレントのマネジメントの仕事をしている。地震の二日後原付でここへ。現地で生の声を聞いて活かしたい。

M.T : 入谷の出身。当日はカナダに。父が役場の職員。父はいつも志津川の良さを語っていた。

M. I : 埼玉県在住。3/11 は東京にいた。映像を見て泣くことしかできなかった。故郷が心の支えなので何かしたい。仲間の大切さを痛感。

Y. H : 仙台にいて、三日後に来た。消防士の父を亡くした。父や日ごろ誰かの役立てる人になれ、といていたが、デイサービスで人を助けに行行って流された。私も皆の力になれることをしたい。

N. T : 仕事場の登米にいた。寝たきりのおばあちゃんがいた。瓦礫の前で泣いた。

千葉裕樹 : 自分たちに自分たちにできることが何かずっと考えていた。まずは集まること。集まってくれた皆様に感謝。ぜひ皆で何かを・・・

Y. K : 仙台で調理師。会員制の高級クラブで仕事。何ができるか考えたい。

T. H : 高校に避難。津波を見てしまった。

A. S : 仙台で店員。家族は無事。役場で避難の放送をしていた女性職員は自分たちの後輩で、亡くなった。その子の分まで頑張りたい。

K. S : 石巻の（ちょっとエッチな）お店に勤めている。猫を連れて逃げた。

N. N : 東京で保育士。小さい子をだっこして公園に逃げた。おばあさんが志津川病院にいて流された。何が出来るかわからないがそれを探したい。

N. S : 東京で看護師。休みで家にいた。TV でみていて何もできず、自分はなんで東京いるのだろうと思った。今日は皆の顔が見られてよかった。

M. S : 歌津中学に逃げた。目に焼き付いたものや音があり、1ヶ月眠れなかった。皆が集まれるのは志津川がすきだから。帰ってこれる町にしたい。ピンチはチャンスだと。

I. S : おじいさん、おばあさん、母、妹を亡くした。この状況で毎日仕事していていいのか・・・

H. G : 神奈川で中学校教員をしている。

M. S : 愛知で小学校の先生。3/11 は戸倉小学校で一夜を明かした。その後先生方に方を押される形で愛知に転勤し、働いている。なくなった同僚もいる中で、自分だけ愛知で働いていいものか、悩む日々が続いていた。  
遠くにいて何もできず、申し訳ない。

□みんなの南三陸の思い出→アピールポイントの固定  
「懐かしい未来」を描くためのワールドカフェ（グループ対話）

5～6人のグループで、A3の紙に記録しながらディスカッション  
お題が一つ変わる度席替えをする。

(以下はあるグループの事例)

お題1 「南三陸の思い出」

高校の頃、子供の頃

- ・野球をした。
- ・海で花火をした
- ・バイトしていた
- ・キャンプ
- ・志津川の釣り、アイナメ、カレイ、どんこ
- ・堤防で野球の練習
- ・元浜のかき氷屋
- ・セブンイレブン
- ・部活は剣道、二段をとった
- ・土手ダッシュ (遊び)
- ・海産物がとれること、うに、あわびがそんなに高級だとは思わなかった。
- ・志津川といえばたこ、アワビ、ホタテ、ホヤ。
- ・お祭り、この近辺で一番大きい、花火・・・
- ・とこやっさい

etc.

お題2 「あらためて思う南三陸の魅力」

- ・おいしいタコ
- ・海から上がる花火 アリの家の屋台
- ・人がやさしい、おおらか、面倒みがいい、働き者
- ・めかぶ
- ・仲良し
- ・海の幸が美味しい。→志のや、しおさい
- ・海!、でも山もあって山菜などもとれる
- ・入谷の産直
- ・アケビが売るほど取れる
- ・観洋
- ・近所の人海で取れたものをくれる。
- ・海こう (解禁?) の日は漁師の息子は公欠になる
- ・海水浴
- ・潮干狩り アサリ、松原公園
- ・ダンゴウオ
- ・ダイビングショップがあった
- ・神割崎でキャンプ
- ・ギンザケ
- ・志津川を離れて1番なつかしいのは海。
- ・ふるさと学習会
- ・かいこ (入谷のひころの里)

- ・みんなここが好き、おとなになっても帰ってくる
  - ・おじいちゃん、おばあちゃんが可愛い。
  - ・憎たらしくても可愛くみえる
- etc.

### お題3「南三陸の魅力、強みを活かした未来像」

→あとで、「こんなまちを創りたい！」を3つのポイントにまとめて発表

- ・また住みたいと思う人がどれくらいいるか？
  - すみたい。海の近くは、すこしためらいがある。
    - ・みてないから実感がわからない、元の場所に住みたい。
    - ・また津波が来るとしても住みたい。バラバラになるのはいや。
    - ・自分の地元がないって何？ という感じ
    - ・志津川の避難所はみんな仲良し。
    - ・仲の良いという志津川の良さがのこるような街づくり
    - ・もっとたくさんの人が来てくれるような病院
    - ・海の魅力を活かしたまちづくり
    - ・人が来たくなるような港
    - ・もとには戻れないから、博物館的なもので、昔の様子がわかるように
- etc.

(事例終了)

全てを紹介するのは難しいが、共通して出てきた意見としては…

- ・祭を通して、共同体ができています。地域に溶け込んでいる。例えばトコヤッサイ。小さい頃はただ祭に参加するのが楽しかったが、おかげで地域の人たちの顔を覚え、文化を学ぶことができた。ほぼ毎月のようにあるお祭のおかげで、いろんなことを学んだ。

- ・遊びを通して、自然と親しみ、生きる力を身につけてきた。

春は山菜取り、潮干狩り。夏は海にもぐったり、釣りをしたり。秋にはキノコ狩り。冬は雪合戦。四季折々に小さい頃からお金のかからない遊びがあり、それを皆と共有してきたことが、思い出となっている。また、その遊びは高校生や大人になっても続いており、もっと言うとそれが魚をさばいたりする生きる力につながっている。

- ・やっぱり海。なんといっても海。

### ■みんなの南三陸町の復興ビジョン（発表）

→具体例とはいえませんが、南三陸をふるさととするものとして若者たちが思いを共有しながらまとめた提言です。南三陸を思うそれぞれが、やはりそれぞれの思いを強く持っているということ、感じていただければと思います。

1 班

**みんなが仕事ができる町**

2 班

**津波につよい町**

横のつながりが強い町  
漁業の再建

3班  
海と仲直り  
住民がひとつの大家族  
いやし南三陸町

4班  
発展しすぎなくてもいいから、あたたかみを生かした町に！  
漁業と観光業を二本柱にした産業 海産物 体験活動  
街づくり 近所とのつながり 官公署は高台に！

5班  
海を魅力とした街づくり 観光 港といえば南三陸（横浜、神戸、南三陸）  
介護雇用子育てが充実した街づくりに！ 生まれたときから死ぬまで安心してずっとすめる街  
づくり  
仲のよい志津川が残るように！人付き合い、近所づきあい、皆が皆、志津川一家

6班  
町全てが自然学校 子どもの頃の体験→教える 水族館・体験学習さばいてとって食べる  
自然とともに生きる力を身につける  
シンプルイズベストのまち シンプルだがらつながりやすい皆が仲良くなれる老若男  
女問わず  
伝統も大切にしつつ 自然の循環を大切に 新しい漁業の町

7班  
祭が全てをつなげる おすばて 灯籠 ナイヤガラ 花火 運動会  
海復活 農業もね  
町復活 希望は昔のように自然とともに生きよう 助け合う町 サンポートやウジエが復活

→どのグループにも共通する南三陸のよさというのは、小さな地域ながらも、昔ながらの共同性が生き残っており、そこから生まれる地域のつながりの暖かさがあるということ。

また海を中心として、豊かな自然の中で遊びながら、生きる力を身につけてきたということ。

そういった共同体だからこそその充足を大切にしながら、自然とうまく付き合っていけるような社会というのは、実は人間本来のあり方に立脚した、非常に価値ある暮らしであるといえ、南三陸町はそんな魅力を持った町でした。

ちょっと不便くらいが丁度いい、南三陸町のよさが感じられるような、町として復興してほしい。

復興においては、このような本来の共同体としてのよさを大切にしながら、近代社会の目先の便利さ・快適さに惑わされずに何代先の未来を見据えて、自然の循環の中で共生していける循環型の「懐かしい未来」を実現していくことが非常に重要になるといえます。

また、南三陸及び東北が、本当にあるべき姿に復興できるかどうかは、単なる一市町村の問題ではなく、環境問題はじめ様々な問題を生じさせてきた今までの社会のあり方を見直すこと

のできる、社会的にも非常に重要な機会であり、これを強く認識できるかどうかは本当に大切なことです。

南三陸町のために、現代社会の問題を解決するために、これらの未来を生きていく子どもたちのために「南三陸の懐かしい未来を実現する会」は復興のあり方を真剣に考え、足元から実現に向けて活動していきます。

■ 3：具体的活動案～今後まず「実現する会にできることは？」

8月までの当面の活動としてはHP開設を中心とした情報発信・収集活動とお盆での町内での祭の開催実現に向けたものとしたい。

○情報発信班

今後の活動方針：

WEBサイトを開設し、その運営を通して情報発信

運営の仕方：

随時ネット上やメール、

必要があれば実際に会ってやりとりする

○情報収集班

今後の活動方針

→現地の人から情報収集、HPなどにアップ、許可を得られたらアンケートなども実施(できれば役場とタイアップしたい)

○瓦礫撤去その他班

今後の活動方針

他のグループから、人手が足りないなどによる、協力要請があった場合は、そちらのサポートに回りたいと思います。

また、他のグループからの要請がない場合には、メンバー内で連絡を取り合い、日程などを調査した後、町内の清掃活動に当たりたいと考えています。

○祭開催班

8月14日(土)か13日(金)に、南三陸町内で、南三陸の復興、懐かしい未来の復活を期待させるような、共同体再生のためのささやかな祭を開催したいと考えています。

具体的な内容がある程度固まった段階で、また町のほうへも紹介・場所の相談などさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○つながり班 (One for all, all for one)

活動方針

1：南三陸町で困っている人がいないか聞き取り後、役場ならびに、町や県へ報告する。

2、グループ内だけではなく、他のグループなどの活動状況の共有。協力できるところは、グループ全体で考え、実行する。

□復興のデザイン・復興に当たっての有用な情報

☆復興のポイントは「共同体の再生」⇒住民主体の復興計画・実践と自然の循環に根付いた「自給社会」

●復興後の社会の一例：エコビレッジ・パーマカルチャーデザイン

エコビレッジジャパン <http://www.ecovillage-japan.net/>

パーマカルチャーセンタージャパン <http://www.pccj.net/>

人間生活は小規模で協力的・健康的な共同体においてこそ最善の状態にある。人間性を追及する唯一の持続可能な経路は、伝統的な共同体生活の向上である。

そういった共通の価値を持った、あるべき暮らしのあり方がエコビレッジである。

エコビレッジの運動は世界的に広まりつつあり、所有から共有へと意識が大転換する中で、それをもとめる潜在的な意識は顕在化しつつあるといえる。

そのエコビレッジのデザインを支える一つがパーマカルチャーデザイン（永続的な農的デザイン）であるが、その土地その土地を注視し、その土地にあった永続可能な地域デザインがそれである。

埼玉県小川町などはその事例といえる。

●新しい社会のあり方：「週休五日制の菜園家族構想」 <http://www.satoken-nomad.com/>

いのちとものを再生産していた本来の家族のあり方を基本単位とし、自給自足を基盤とする貨幣経済に左右されない社会の実現モデルを提唱している。週休5日で地域の中で相互扶助的な自給生活を行い、残り2日はワークシェアリングで従来の賃金生活を送る生活を提唱している。また、家族を守り助け合いながら流域を管理することは、地域社会や環境を守ることにもつながる。

●こういった復興に当たって第一課題となる、土壌の浄化などについて調査・情報提供をしてくれる組織があります。積極的に南三陸の復興の手伝いをしたいと申し出てくれているので、ぜひ打診していただければとうれしく思います。

・自然エネルギー・東日本復興ネットワーク <http://eco-agri.net/>

⇒実際に仙台や福島で、エコアグリタウンを完成とした、復興の着手が始まっています。

☆「南三陸の懐かしい未来を実現する会」や南三陸の復興の様子は、日本、世界に注目されています。

⇒アースサミット2012 <http://earthsummit2012.jp/home.html>

来年は1992年のリオデジャネイロでの地球サミットから20周年を迎えます。その20周年の地球サミットは、またリオで開催されますが、そのリオでは政府主導ではなく、地元、住民主導の環境対策、地域づくりが求められています。アースサミット2012では、ジャパンボイス2012ということで、実際に来年のリオデジャネイロに日本人の声を届けるべく活動していますが、その一つとして、この3・11後の南三陸の復興の様子も伝える予定とのことです。

□ 物資の提供、情報提供

●ふんばろう東日本プロジェクト <http://fumbaro.org/>

ほしいものをほしいときにとアマゾンのシステムなどを導入して、精力的に物資の収集・提供



などを行ってくださっています。

● 南三陸町支援情報ポータルサイト <http://minamisanrikushien.bogspot.com>  
正確な情報を必要な住民などへ提供して下さっているサイトです。

□ 住民移転・就労支援

● 新しい公共を作る市民キャビネット農都地域部会  
⇒中産間地域の限界集落で農業を営むように被災者を一時避難させ、住居の確保及び職の確保を行う。また、限界集落に人が入ることで、同時に地域の活性化も行っている。